

【資料3】よりの確な市民意向の把握や市民意見を市政に反映する仕組み（たたき台）

1 市民ワークショップにおける市民の意見

去る2月25日「市民自治を考える市民ワークショップ」を開催。
テーマを「札幌の市民参加を高めるために」と設定して各グループで議論いただいた。
議論の結果、参加者においては、

- 市民参加が多様であること、レベル感も違うこと
- 市民参加を活性化させるには「①情報が必要」「②機会や場が必要」「③メリットが必要」であること

を認識。

その後、議論の結果を踏まえて「市民参加をもっと盛んにする手法」などのアイデアや考えを出しあった。（参加者の主な意見は以下表のとおり）

【参加者の主な意見】

項目	課題や気づき	活性化する手法
①情報が必要	<ul style="list-style-type: none"> ●参加手法（パブコメ等）を今回のワークショップ参加で初めて知った。 ●SNSだと情報収集が手軽で見やすいと思う。 ●市政情報は広報さっぽろで知る程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙以外にもデジタルを活用する。 ○SNS（インスタグラム、ライン）を活用する。 ○スマホで参加度合いが見られるアプリを開発
②機会や場が必要	<ul style="list-style-type: none"> ●参加しやすいとよい。（参加のハードルが高い。機会があることも知らなかった。） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市のアンケートをデジタル化 ○若い世代のワークショップ開催
③メリットが必要	<ul style="list-style-type: none"> ●参加にメリットが感じられないほか手軽さがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加で特典ポイントを付与 ○参加とマイナンバーカードを連携

市民参加を高めるための主な意見の中で共通するキーワードは「手軽さ」や「ハードルの低さ」のほか、「SNS等のデジタルツールの活用」、「インセンティブなどのメリット」であった。

自治基本条例に基づく市民自治を推進する重要なポイントである「情報共有」と「市民参加」について、市民は時代に合った形を必要としている。

2 施策や各事業に対する現状の調査・分析と現状に適した市民参加手法の展開

市が行う様々な事業等に対する市民の認識の現状について、横軸を理解や関心の度合い、縦軸を意見や意向表明の度合いと仮定する。
本来、各層（第1～4象限：①～④）に適した市民参加手法は異なると考えられるが、**現状市民認識の把握は行っておらず、市民参加手法の使い分けを行っていない。**
例えば、進めようとする事業等について、市民認識やニーズなどをできるだけ正確に把握して、最適な市民参加手法を用いるなどすることで、より多くの市民参加がなされ、市民参加による的確・効果的な行政運営につながるのではないか。

